

フランス労働総同盟との懇談 (2024 年 9 月 6 日)

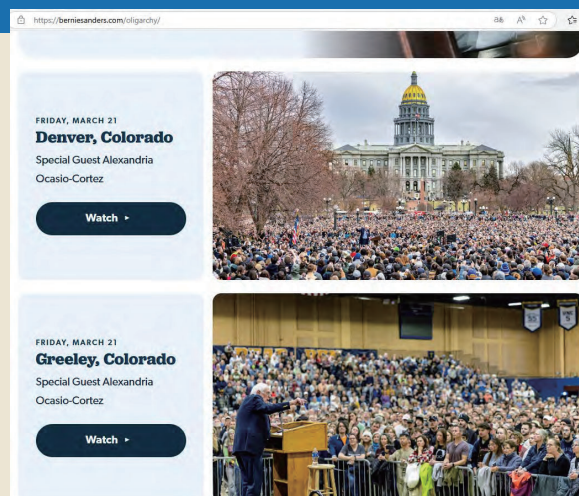


『資本論』第一部 (Princeton University Press)

米国で刊行された
『資本論』第一部の
新英語版



berniesanders.com から



『資本論』はどのような本なのか

- 資本主義を生成、発展、没落でとらえた書
- 未来社会——社会主義・共産主義社会が豊かに語られた書
- 労働者と人民に社会を変える闘いを呼びかけた書

「肯定的理解」と「必然的没落の理解」

「(合理的な姿態での) 弁証法は、現存するものの肯定的理解のうちに、同時にまた、その否定、その必然的没落の理解を含み、どの生成した形態をも運動の流れのなかで、したがってまたその経過的な側面からとらえ、なにものによっても威圧されることなく、その本質上批判的であり革命的であるからである」

(①33～49、新版『資本論』、以下同)

未来社会の基本原則

「各個人の完全で自由な発展を
基本原則とするより高度な社会形態」

(④10309)

インタナショナル・総評議会の出欠簿

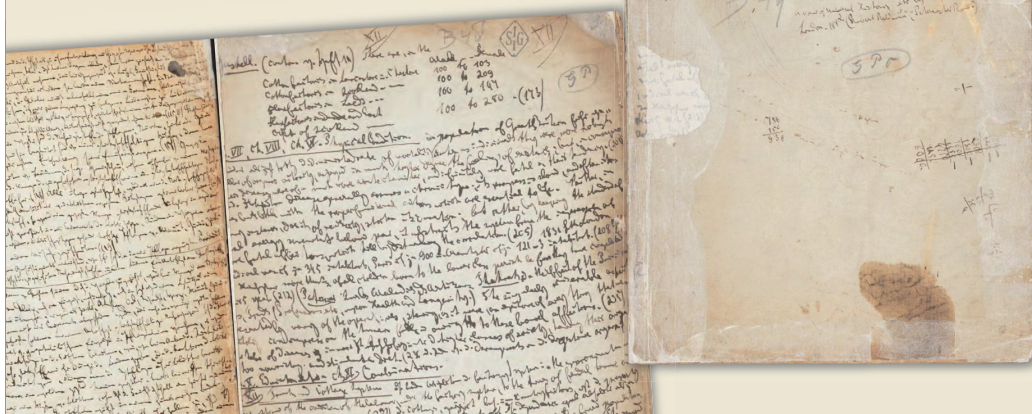
Attendance of Members
from September to December 1870
September October November December

Applegate	+	+			2	14
Baun	+	+	+	+	5	11
Brudnick	+	+	+	+	3	13
Cahill		+			1	15
Cohen	+		+		2	14
Cozzani	+	+	+	+	16	26
Engels	+	+	+	+	11	1
Felix J.	+	+	+		6	10
Felix M.	+	+	Out of town		2	14
Harris	+	+	+	+	12	4
Living	+	+	+	+	2	4
Lapointe	+	+	+	+	10	4
Lerner	+	+	+	+	12	4
Lewitt	+	+	+		4	12
Mason	+	+	+	+	15	1
McLean	+	+	+	+	12	4
McMichael	+				1	15
Murray	+	+	+	+	15	1
Murphy	+	+	+	+	16	1
Oliver	+	+	+	+	16	1
Parker	+	+	+	+	8	8
Parker	+	+	+	+	8	8
Reid	+	+	+	+	15	1
Stepney	+	+	+	+	15	1
Thompson	+	+	+	+	13	4
Wester	+	+	+		5	15
Zachary	+	+	+	+	16	1
Zelen	+	+	+	+	3	1
Zell	+	+	+	+	3	1

『資本論』のためのノートと草稿 (1843～63年)

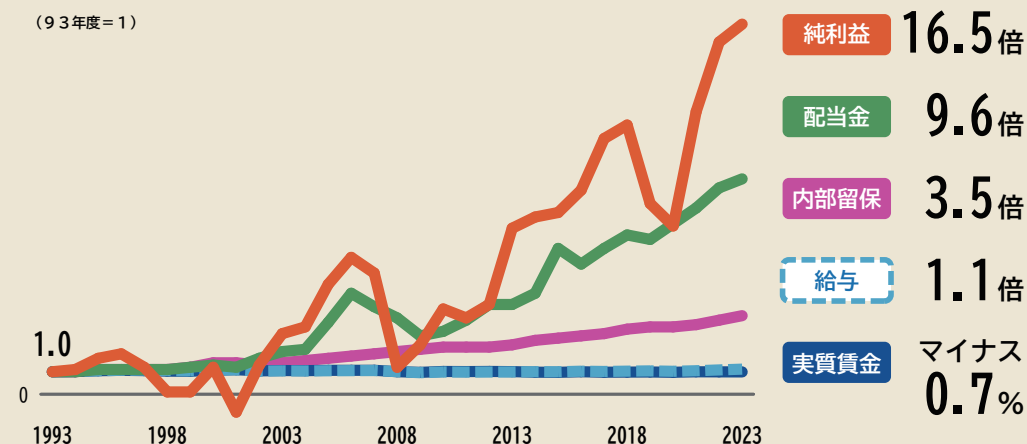
『パリ・ノート』	9冊	43～44年
『ブリュッセル・ノート』	6冊	45年
『マンチェスター・ノート』	マルクス5冊、エンゲルス3冊	45年
『ブリュッセル・ノート』	続き3冊	45～47年
『ロンドン・ノート』	24冊	50～53年
『サブ・ノート』	8冊	53年～
『57～58年草稿』	7冊	57～58年
『61～63年草稿』	23冊	61～63年

マルクスが作成した『ロンドン・ノート』の一冊

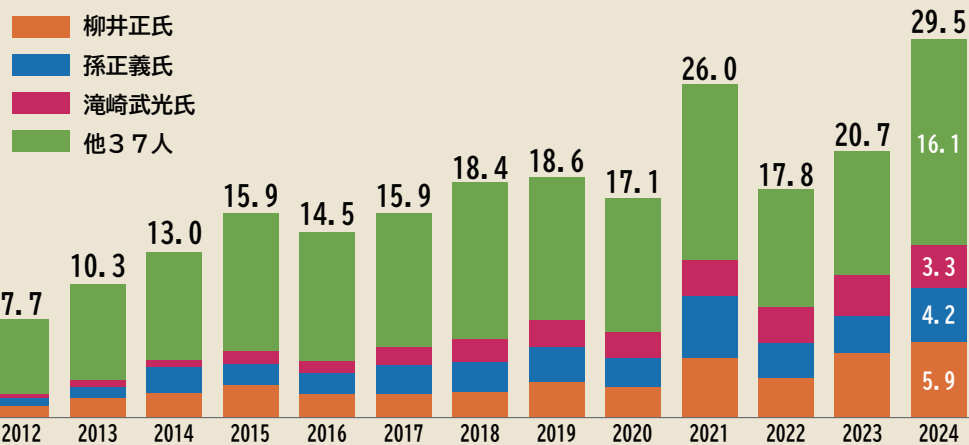


大企業の諸指標の30年間の推移

(93年度 = 1)

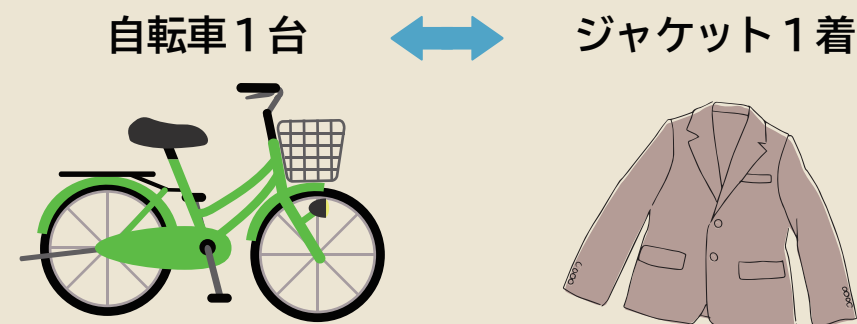


日本の富裕層上位40人の資産額の推移



米誌「フォーブス」のデータから集計、単位:兆円

商品の交換



価値法則

商品の価値の大きさを決めるのは、
これを生産するのに社会的に必要な労働の量、
または、社会的に必要な労働時間である、

(①73分)

搾取の秘密の謎解き（１）



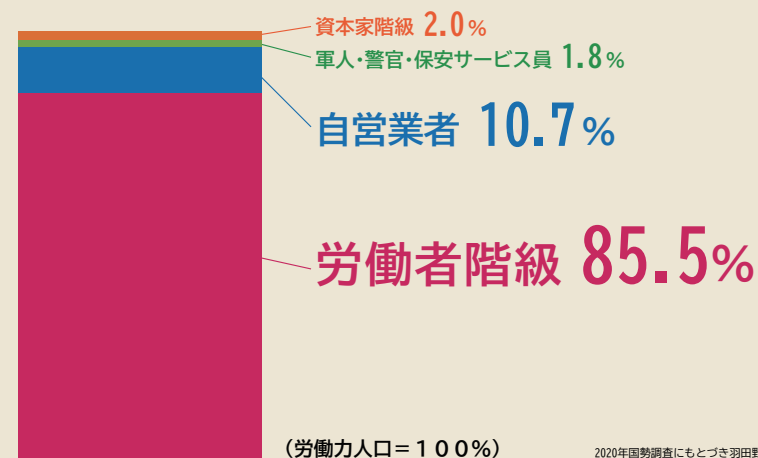
搾取の秘密の謎解き（２）

労働力 → 物質的な富やサービスを生産するために使われる
人間の肉体的・精神的諸能力。

労働力の価値 → 労働力を生産し、維持し、発達させ、永続させるのに必要
な生活必需品の価値によって決定される（必要労働時間）

労働力の消費 = 労働が生み出す価値 → 労働力の価値より大きなものとなる
（剰余労働時間）

日本の階級構成（2020年）



2020年国勢調査にもとづき羽田野修一氏が作成

必要労働時間と剰余労働時間

8時間労働に換算すると



資本家は「自由な時間」を横領する

「資本家は自由な時間、
すなわち文明を、横領する」

(『資本論草稿集』2380分)

絶対的剰余価値の生産



「資本の魂」

「資本にはただ一つの衝動があるだけである。労働者をできるだけ長く働かせて、できるだけもうけを大きくして自分の資本を大きくする衝動だ。これが「資本の魂」であり、吸血鬼のように、労働者から「生きた労働」を吸い出せば吸い出すほど、元気になり、力も強くなっていくのが資本である、

(2401分)

「労働者の声」

「僕が君（資本家）に売った労働力という商品は、その使用がより大きな価値をつくりだす点で、他のありきたりの商品とは違う。たしかに僕の日々の労働力の使用は君のものだ。しかし僕は、あすもきょうとおなじように健康で、はつらつと、労働できなければならない。だから僕は標準労働日——労働時間の法律による規制を要求する、

(2403~4分)

19世紀のイギリスでの資本の「吸血鬼」ぶり

- 労働者の食事時間や休養時間からの「こそどろ」
「数分間のちょろまかし」「ひったくり」「食事時間のかじりとり」
- 経済学書で告発された最初の過労死
メアリー・アン・ウォークリーの死（1863年6月）

過労死したトラック・ドライバーの「運転日誌」

1	出庫	網走市大曲一丁目		22/01:51
2	休憩	網走市字卯原内 積込み場所・待機	22/02:18	22/04:06
3	休憩	網走市字卯原内	22/04:27	22/05:09
4	荷積み	網走市字卯原内	22/05:10	22/05:48
5	休憩	網走市字卯原内	22/06:01	22/07:49
6	休憩	紋別市海洋公園 荷卸し前の待機	22/09:22	22/10:24
7	休憩	紋別市港町六丁目 荷卸し場	22/11:01	22/12:20
8	休憩	紋別市港町五丁目	22/12:24	22/12:59
9	休憩	網走市字卯原内 積込み場所・待機	22/14:35	22/15:04
10	休憩	網走市字卯原内	22/15:04	22/16:28
11	休憩	網走市字卯原内	22/16:35	22/16:59
12	休憩	網走市大曲一丁目	22/17:12	22/18:17
13	入庫	網走市大曲一丁目	22/18:17	

「大洪水」から労働者の健康と寿命を守る

「大洪水よ、わが亡きあとに来たれ！」、これがすべての資本家のスローガンだ。資本は、社会によって強制されるのであれば、労働者の健康と寿命にたいして、なんら気にかけることはない、

(2471分)

「自由に処分できる時間」

「人間的な教養のための、精神的発達のための、
社会的役割の遂行のための、社会的交流のための、
肉体的・精神的生命力の自由な活動のための時間」

(2462分)

「時間は人間の発達の間」

「時間は人間の発達の間である。思うままに処分できる
自由な時間をもたない人間、睡眠や食事などによるたんな
る生理的な中断をのぞけば、その全生涯を資本家のために
労働によって奪われる人間は、牛馬にもおとるものである」

(『賃金、価格および利潤』、『古典選書』170～171分)

労働者解放の「先決条件」

「われわれは、労働日の制限が、それなしには他のすべ
ての〔改善と〕解放の試みが失敗に終わらざるをえない先
決条件であると言明する。……われわれは、労働日の法定
の限度として八時間労働制を提案する」

(2530分)

相対的剰余価値の生産

$$\begin{array}{c} a \text{ ————— } b \text{ ————— } c \\ a \text{ ————— } 'b \text{ ————— } c \end{array}$$

生産力について

- 1 本来、生産力とは「労働の生産力」。
- 2 資本主義社会では、「労働の生産力」が「資本の生産力」であるかのようにあらわれ、搾取を強化したり、環境を破壊する力をふるう。
- 3 資本主義のもとでの生産力の発展は、未来社会の条件をつくりだす。
- 4 未来社会における生産力は新しい質をもつ。
 - 「自由な時間」をもつ人間によって担われる
 - 労働者の生活向上と調和した質をもつ
 - 環境保全と両立する質をもつ

生産力の発展は、未来社会の物質的条件をつくる

「価値増殖の狂信者として、彼（資本）は容赦なく人類を強制して、生産のために生産させ、したがって社会的生産諸力を発展させ、そしてまた、各個人の完全で自由な発展を基本原理とするより高度な社会形態——未来社会——の唯一の現実的土台となりうる物質的生産諸条件を創造させる」

(④1030分)

機械制大工業が労働者に及ぼす破壊的影響

- 女性と子どもの労働
- 労働時間の延長
- 労働の強化
- 雇用の破壊

「未来の教育」

「工場法の教育条項は、……初等教育を労働の義務的条件として宣言している。……工場制度から未来の教育の萌芽が芽ばえたのであり、この未来の教育は、……全面的に発達した人間をつくるための唯一の方法として、……生産的労働を知育および体育と結びつけるであろう」

(③844～5分)

「古い家族制度」の解体、男女両性関係の高度な形態の基礎

「大工業は、古い家族関係そのものを解体する。児童の権利が宣言された。大工業は、家族と男女両性関係とのより高度な形態のための新しい経済的基礎をつくり出す。労働者の集団が男女によって構成されていることは、資本主義のもとでは退廃と奴隷状態の源泉だが、適切な諸関係のもとでは、逆に、人間的発展の源泉に急変するに違いない、

(3854～5分)

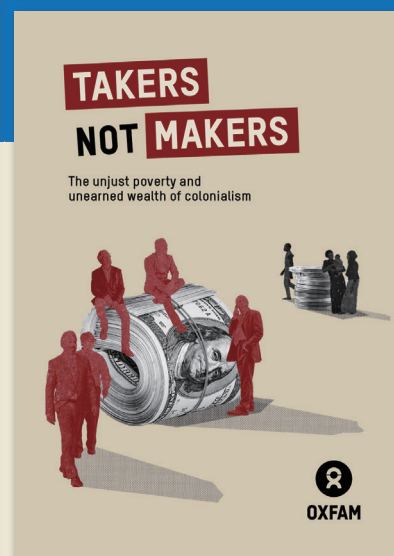
物質代謝の攪乱と再建

「資本主義的生産は、……人間と土地とのあいだの物質代謝を、すなわち……持続的な土地豊度の永久的自然条件を攪乱する。……しかしそれは同時に、……その物質代謝を、社会的生産の規制的法則として、また完全な人間の発展に適合した形態において、体系的に再建することを強制する」

(3880～1分)

「オックスファム」 報告書(1)

——『(富を)つくりず、奪う人々』



超富裕層の富の拡大と不平等の拡大(24年)

- ビリオネア（資産10億ドル超の超富裕層）トップ10人の富は、1人につき1日1億ドル（約150億円）の超スピードで増えた。このペースで増え続けると、10年以内に5人のトリオネア（資産1兆円ドル超の超富裕層）が生まれる。
- 国際貧困ラインの1日6・85ドル（約1028円）より低い所得で暮らす人々の数は36億人で、1996年からほとんど変わらず、世界人口の44%を占めている。
- 富の集中は、巨大多国籍企業の国際的な搾取・収奪によるものだ。ビリオネアが保有する富の6割は、相続、縁故主義、汚職、独占権力などの不労所得であり、かつての植民地主義の産物だ。彼らは富を奪う者であり、富を生み出す者ではない。

「オックスファム」 報告書(2)

——目のくらむような
格差の拡大

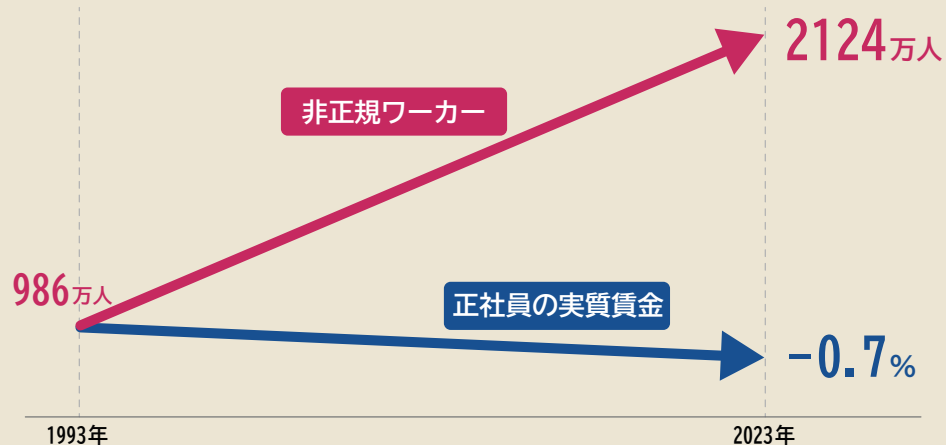


相対的過剰人口または産業予備軍——富の蓄積と貧困の蓄積

相対的過剰人口または産業予備軍は、ヘファイストスの楔がプロメテウスを岩に縛りつけたよりもいっそう固く、労働者を資本に縛りつける。一方の側における富の蓄積は、同時に、その対極における貧困、労働苦、奴隷状態、無知、野蛮化、および道徳的墮落の蓄積である。

(41126分)

非正規ワーカーの拡大と正社員の実質賃金の低下



資本の「本源的蓄積」

「資本は、頭から爪先まで、あらゆる毛穴から、血と汚物をしたたらせながら、この世に生まれてくる」

(41327分)

未来社会を形づくる客観的要素の成熟

- ミ——ますます増大する規模での労働過程の協業的形態。
- 科学の意識的な技術的応用。
- 土地の計画的利用。
- 共同的にのみ使用されうる労働手段が支配的になること。
- 労働者の集団による生産手段の使用と、それによる生産手段の節約。
- 世界市場の網のなかへのすべての国民の編入。
- 資本主義体制の国際的性格が、発展する、

(④1331~2分)

労働者階級の主体的条件の成熟

「いっさいの利益を横奪し独占する大資本家の数が絶えず減少していくにつれて、貧困、抑圧、隷属、墮落、搾取の総量は増大するが、しかしまた、絶えず膨張するところの、資本主義的生産過程そのものの機構によって結合され訓練される労働者階級の反抗もまた増大する」

(④1332分)

資本主義的私的所有の吊いの鐘が鳴る

「資本独占は、それとともにまたそれのもとで開花した生産様式の桎梏となる。生産手段の集中と労働の社会化とは、それらの資本主義的な外皮とは調和しえなくなる一点に到達する。この外皮は粉碎される。資本主義的私所有の吊いの鐘が鳴る。収奪者が収奪される」

(④1332分)

生産手段の共同占有を基礎とした個人的所有の再建

「資本主義的な私所有は、自分の労働にもとづく個人的な私所有の最初の否定である。しかし、資本主義的生産は、自然過程の必然性をもってそれ自身の否定を生み出す。これは否定の否定である。この否定は、私所有を再建するものではないが、しかし、資本主義時代の成果——すなわち、協業と、土地の共同占有ならびに労働そのものによって生産された生産手段の共同占有——を基礎とする個人的所有を再建する」

(④1332分)

未来社会で生産手段と生産物がどうなるか

	生産手段	生産物
小経営	生産者の個人的な私的所有	生産者個人のものに
	↓(否定)	
資本主義	資本家が独り占め	資本家が独り占め (一部を賃金として労働者に)
	↓(否定)	
社会主義	社会的所有	生産者による個人的な所有

『Q & A 共産主義と自由』の骨子

- 序論——資本主義はほんとうに「人間の自由」を保障しているか？
- 第一の角度——「利潤第一主義」からの自由
- 第二の角度——「人間の自由で全面的な発展」
- 第三の角度——発達した資本主義国での巨大な可能性

新しい社会の国際的なおきては平和

「万国の労働者階級の同盟がついには戦争を絶滅するであろう」「新しい社会の国際的なおきては平和であろう」

(古典選書『インタナショナル』148分)

ローザ・ルクセンブルク財団での理論交流



学問に平坦な大道はない

「学問にとって平坦な大道はありません。そして、学問の険しい小道をよじ登る労苦を恐れない人々だけが、その輝く頂上にたどりつく幸運にめぐまれるのです」

(①36分)

自分自身で考えよう

「私は、新たなものを学ぼうとし、したがってまた自分自身で考えようとする読者を想定している」

(①11分)